

【結果概要】 準天頂衛星利活用サブワーキンググループ

○マゼランシステムズジャパン（株）より、資料1に沿って、準天頂衛星による新たな測位について説明。対応受信機の開発動向や今後の普及に向けた課題などの紹介があった。また、内閣府SIPでの北海道大学や農研機構との実証実験、ドローンの衝突回避に係わる技術開発のための飛行試験について報告された。質疑応答では、初期収束時間について質問があり、外部からのローカル情報補正や、20cm程度の精度要求であれば3分程で測位可能であると回答された。

○東日本高速道路（株）より、資料2に沿って、準天頂衛星を活用した除雪車運転支援システムの開発について説明。雪氷対策作業にはcm級の精度が求められることや、将来的な労働力問題を解決するための除雪車運転支援システム及び普及拡大に向けた課題について報告された。除雪車運転支援システムについて、高さ情報の必要性について質問があり、今後、徐行ではなく高速道路本線を高速走行しながら除雪をする際に、路面の段差を考慮する必要があると回答された。

○ソフトバンク（株）より、資料3に沿って、準天頂衛星の産業活用とIoT端末について説明。準天頂衛星を使った屋内外シームレス測位実証、山間部での測位実証及び数百名を対象とした大規模実証など産業活用に向けた取組や、今後のネットワークインフラの高度化に向けた取組が報告された。質疑応答では、GNSS系の電波はシグナルの強度が弱いことによるジャミングやなりすましに弱いことへの対応策について質問があり、過去のデータを利用した機械学習や二次補正ロジックを使用して、情報の取捨選択や予測による補正情報を作成することで精度を上げていると回答された。

○全体討議

出席委員より、ISOにおいて提案されている、センサーを使用した場合のネットワーク通信を伴う産業・サービスの信頼度を担保する評価軸を作るためのプロジェクト

(PC317) について紹介があった。これを受け、座長より、今後様々なものがデータ化されていくと、ネットワークだけではなく、センサーそのものがハッキングを受ける可能性があることが述べられた。

最後に、座長より、これまでの議論をベースとして各組織におけるみちびき利用の可能性や将来の在り方などについての調査への協力依頼が行われた。

(以上)